

日本鉄鋼協会記事

訪独・ベネルックス鉄鋼使節団派遣について

昨年4月、創立50周年記念式典挙行に当たりましては世界各国から代表者の参加を得て、日本の学協会としては画期的に国際色豊かな式典となりました。それは近年における日本鉄鋼業の発展および日本鉄鋼協会の活動が世界から注目されている証拠と考えられます。

一昨々年英国鉄鋼協会の招待で当協会は英国鉄鋼視察団を派遣し、日英親善の使節として大きな役割を果たしました。その後の日英関係が鉄鋼業のみならず各方面において著しく改善されており、外交の渉に当たる方からも高く評価されており、誠に嬉しい限りであります。

今回ドイツ鉄鋼協会およびベネルックスの鉄鋼共同研究機関である C. N. R. M. の招待で、オランダ、ベルギー、ルクセンブルグ、ドイツを訪問する訪独ベネルックス鉄鋼使節団を派遣することになりました。団員は佐野会長をリーダーとして下記のごとく、名実共に日本を代表される方々であります。

9月14日出発、10月1日欧州の現地において解散いたしますが、訪英視察団と同じように国際親善の上に大きな前進が見られることを期待してやみません。帰国後できるだけ早く欧州鉄鋼業の現状および問題点を理解する上に参考となるべき報告書を取りまとめ、会員各位の便宜に供したいと存じます。

日本鉄鋼協会	会 長	佐 野 幸 吉
〃	専務理事	田 畑 新 太 郎
八幡製鉄(株)	副 社 長	湯 川 正 夫
〃	生産管理部副長	甲 斐 幹 幹
富士製鉄(株)	副社長・中央研究所長	的 場 幸 雄
〃	技術開発部調査役	高 石 昭 吾
日本鋼管(株)	常務取締役	中 野 宏
川崎製鉄(株)	常務取締役	中 島 道 文
住友金属工業(株)	専務取締役	小 出 秋 彦
〃	東京技術部長	大 中 都 四 郎
(株)神戸製鋼所	取 締 役	杉 沢 英 男
(株)日本製鋼所	取 締 役	館 野 万 吉
大同製鋼(株)	副 社 長	林 達 夫
特殊製鋼(株)	社 長	石 原 正 美
通商産業省	製鉄課長	木 寺 淳
日本鉄鋼連盟	管理部技術課長	飯 島 健 一

理 事 会

第5回理事会 開催日：7月19日。出席者：佐野会長他36名。

会議事項

- 41年度鉦工業補助金交付決定通知に関する件
「鋼中微量元素としてのニオブウムの影響に関する研究」
「ギルド鋼中の非金属介在物に関する研究」
「製鉄作業用クレーンスケールの実用化試作」
以上3件の交付決定通知があつた旨報告
- 英国鉄鋼金属両学協会熱処理合同委員会開催に関する件
出席希望の有無につき各社に照会することとなつた
- 編集委員会規程制定に関する件
提出資料原案を一部修正（本委員会とあるを運営委員会と改める）の上承認
- 西欧派遣鉄鋼使節団に関する件
9月14日日本を出発し、約2週間の予定でドイツベネルックスを訪問する。目的は50周年式典にドイツよりデレゲーションの参加および本年3月ベルギー

一よりの鉄鋼ミッションの訪日に対する答礼をかねた親善および技術調査である。現在大中幹事を中心に準備体勢に入っている。名称は訪独ベネルックス鉄鋼使節団に決定

- 昭和42年度鉦工業技術試験研究補助金に関する工業技術院調査に対する回答について
 - 鉄鋼標準試料特に機器分析用標準試料の編析調査試験研究 総額 600万円
 - クリープ試験片の標準化に関する研究 総額 1,500万円
 - セミキルド鋼の非金属介在物の研究 総額 2,500万円
 - 鋼中の微量元素添加の研究 総額 1,500万円
 上記4件を申請する予定である旨回答することに決定

企 画 委 員 会

第4回委員会 開催日：7月14日。出席者：伊木委員長他21名。

会議事項

- 西欧派遣使節団派遣に関する件

大中理事を中心に着々と調査準備を進めている。参加各社から幹事を出していただき、調査準備を進めている。参加各社から幹事を出していただき、調査に協力願うこととなった。

2. スウェーデンから使節団来訪に関する件
田畑専務理事報告 期日が変更になり10月末より11月にわたって派遣されることになった。三井理事より八幡はケイ索鋼板の工場は見せられない旨の報告があり、その他の各社の都合を問合わせることとなった。
3. 1970年国際会議準備委員について
委員の選定は次回に行なう。
4. 金属材料技術研究所疲勞試験機増強につき要望書提出に関する件
クリーブ委員会で河田金材研部長から協会より要望書を提出してもらいたい旨話があった。金材研の計画の詳細を確かめた上企画分科会で審議することになった。
5. ユネスコ技術援助専門家候補者募集に関する件
各社に連絡することに決定
6. 編集委員会規程制定について
荒木委員長報告 先に提出した第1案の他に新たに第2案を作成し提出した。第2案を修正する方針で庶務分科会に案文を依頼し、次回理事会に提出することに決定。

研究委員会

第5回委員会 開催日：7月15日。出席者：今井委員長他24名。
会議事項

1. 第7回技術講座について
2. 研究委員会のあり方について
先に各大学、会社などに当件につきアンケートを行ない提出された意見をまとめて報告した。また協会事務局より意見を報告した。これらを中心として活発な意見が交換されたが結論を得るに至らず次回に引続き検討することになった。

編集委員会

第5回委員会 開催日：7月25日。出席者：荒木委員長他17名。
会議事項

1. 編集委員会規定および委員委嘱について
編集業務を円滑に遂行するため、編集委員会規定を設け、親委員会として運営委員会をおき、その下に和文会誌分科会、欧文会誌分科会、講演大会分科会、出版分科会の4分科会で構成する旨報告があり、それぞれ委員を委嘱することになった。

運営委員会 — 和文会誌分科会
— 欧文会誌分科会
— 講演大会分科会
— 出版分科会

欧文会誌分科会

第3回分科会 開催日：7月26日。出席者：橋口主査他16名。
会議事項

今回は橋口主査をはじめとして新旧両編集委員が出席した。

1. 6巻4号から7巻2号までの発行スケジュール表を検討し、各掲載論文の審査員を決定。
2. 文献略記例の資料が提出されたが、検討は次回の委員会に持ちこされた。
3. 掲載論文の原稿ストックができるまで当分編集委員会は毎月1回催される。
4. 6巻2号の講評
 - 1) 講演題目記事の著者氏名は全員掲載されるべきである。
 - 2) 講演大会“Grand Lecture Meeting”という表現、文献欄の会社刊行物“...Engineering Firms”という表現は他の例も調べあわせて改題する。
5. 編集委員は、掲載可能な論文を心がけて推薦するよう。また英文校閲者を強化するため候補者を推薦するようとの指示があった。

資料委員会

第32回委員会 開催日：7月26日。出席者：草川委員長他14名。
会議事項

1. 11月号に掲載する資料室だよりについて
討議した結果、BISI Special Report バックナンバーについて紹介することになった。
 2. 事務局における資料室のあり方について
 3. 図書資料購入に当たって話し合った結果
まず辞書類からそろえることに決定した。
- 次回
1. ASTM メンバーの特典について
 2. 今後の抄録のあり方について検討する。

共同研究会

製鋼部会

第34回部会 開催日：7月14、15日。出席者：井上部会長他80名。
会議事項

第1日目：於新宿厚生年金会館
共通議題 「鋼塊の欠陥防止に関する研究」および「製鋼原料に関する問題の研究」ならびに自由議題として19編の報告が参加各社よりなされた。

第2日目：於神田学士会館
午前中 英国鉄鋼協会 1966年春季大会（転炉操業の部）出席および工場見学報告が岸田正夫氏（鋼管）、西脇実氏（八幡）、三宅俊和氏（東海）、岡崎有登氏（川鉄）、飯浜宇一郎氏（神鋼）よりなされた。

午後 学術振興会との共同討議が「酸素定量用試料採取法」について学振側6氏の発表の下で行なわれた。

鋼板部会

分塊分科会

特集号編集打合せ 開催日：7月4日。出席者：荒木幹事他14名。
会議事項

分塊分科会特集号の編集方針につき打合せ、前号(昭和39年8月)の改訂版の形にすることにした。最近の進歩およびその過程については特記する。

各社より編集委員を選出し、これを確認しさらに各社執筆担当範囲を審議、これを決定した。

第2回編集委員会 開催日: 8月5日。出席者: 高地委員長他18名。

会議事項

各委員担当項目のうちの小項目を発表して気付いた問題点について審議し編集方針をかためた。

各社の分塊設備、作業の最近の状況把握のため、アンケートを発することにし、アンケート様式を各編集委員が作成し、分科会委員に協力願うことにした。

特殊鋼部会

第29回部会 開催日: 7月5, 6日。出席者: 磐城部会長他75名。

会議事項

第1日目 於鉄鋼連盟会議室

特別議題 1. 「真空脱ガスと品質に関する研究」; 真空脱ガスに関する調査表報告他4編の報告があつた。

特別議題 2. 「真空溶解と品質に関する研究」; 「真空溶解した軸受鋼の品質」他5編の報告がなされた。

共通議題: 「特殊鋼の品質と製造技術の研究」, 「鑄型形状の[C]偏析におよぼす影響」他6編報告あり

第2日目 於日本鋼管水江製鉄所

前日に続き共通議題: 「特殊鋼の品質と製造技術の研究」で5編の報告あり。

自由議題: CCにおける溶鋼温度管理他1編の報告あり。

報告討論の後、水江製鉄所と日本金属工業相模原工場を見学し現地解散す。

調査部会

第19回部会 開催日: 8月4, 5日。出席者: 木寺部会長他46名。

会議事項

1. 岸壁能力合同調査について

在京幹事会で要約報告書を作成し検討した今後この問題については定期交換資料のかたちで持続してゆくことになった。具体的に在京幹事会で決定する。

2. 定期交換資料

3. 港湾現況調査

4. アンローダー能力調査

5. 次回議題について

成品輸送問題をとりあげるが問題の性格上調査に難しいところがあり内容をしぼるなどにより行なうことになった。その前提として基礎調査アンケートを行なう予定である。

工場見学

住金和歌山の原料岸壁、成品積出岸壁を見学した。

新技術開発部会

製鉄体系の自動化分科会

第1回分科会 開催日: 7月29日。出席者: 雀部部会長他15名。

会議事項

1. 当分科会の設立経過について

近年製鉄工程の全体を通じた連続的な自動化が世界各国で注目を集め、ソ連などでは相当具体的な研究が計画されている。日本でもこれらに立ちおくれぬよう今から世界の状況を把握しその態勢を整えておく必要がある。新技術開発部会の中に当分科会を置くことになった。

2. 世界各国の現状調査

提出資料

1) On-line computer systems in the metals industry 富士製鉄(株) 吉谷氏

2) ユンピュータによるプロセス制御の実際 //

3) Continuous steel making 関係文献

金材技研 中川氏

4) 製鉄体系の自動化に関するソ連の動き

東大生研 雀部氏

3. 今後の運営方針

自動化を中心にして20年後のビジョンを考え、具体的には今後のIEの動きなどを調査して自動化の方向を1本にまとめて研究していきたい。

鉄鋼分析部会

発光分光分析分科会

第8回分科会 開催日: 7月5日。出席者: 杉山主査他32名。

会議事項

1. 共同実験解析結果(炭素鋼低合金鋼)について

1) 補正定量値は未補正の定量値に比較して標準値に近い。

2) 所間誤差推定式は化学分析結果に比較して同等またはずれている。

以上によりJISG 1253-1963改訂時に所間誤差推定式を推奨、また影響元素は波長別にとりあげるなどの配慮を行なう予定である。

2. 高合金鋼共同実験について

実験の目的はJIS 1253-1963の整備充実で対象をステンレスとする。

試料は7月末までに配布し9月末までに実験データを作成をまとめる予定である。

実験参加所は21カ所である。

標準化委員会

鋼管分科会

第8回分科会 開催日: 8月3日。出席者: 下川主査他21名。

会議事項

JIS 配管用鋼管原案分科会が9月に開催される予定である。これに先だちメーカー間で改正の問題点を討議した。

特殊鋼分科会

第2回分科会 開催日：7月22日。出席者：磐城主査他31名。

会議事項

自動車工業会より「自動車用炭素鋼鋼材およびH鋼協定規格—1966」案の提示が特殊鋼10社(大同, 愛知, …)に行なわれたのに対し特殊鋼分科会として検討を行なった。

まず自工会規格案の鉄鋼協会としての取扱い方が論議されたのち逐条審議された。

第3回分科会 開催日：7月29日。出席者：磐城主査他26名。

会議事項

1. 自工会規格案についての要望事項の確認。

前回の分科会で審議した要望事項について逐条的に確認した。主な論点は化学成分規定についてであり、活潑な論議がなされた。

2. 低マンガン鋼の JIS 制定について

低マンガン鋼 JIS 原案分科会の幹事会社の神戸製鋼よりアンケート結果の報告があり当分科会として、対象鋼種の絞り方、成分範囲などの方針が論議された。

機械試験方法分科会

第12回分科会 開催日：7月20日。

会議事項

工技院より委託された JISZ 2241, 2242 の見直しの方針につき打合せ。メンバーをメーカー13社, 試験機メーカー3社, 研究所, 協会9所計25名により見直しを行なうことにした。

ISO より依頼のあるスーパーフィッシュル硬さ試験法の審議は当委員会硬さ関係委員の他, 茨大黒木教授他8社に協力していただくことにした。

クリープ委員会

技術部会

第3回部会 開催日：7月28日。出席者：作井, 俵部会長他45名。

会議事項

1. 鋼の高温特性に関する海外報告

作井部会長より次の配付資料をもとに

- 1) 鋼の高温性質に関する会議報告
- 2) 英国における金属材料研究施設見学
- 3) Eastbourne 会議例の1例

の海外報告が行なわれた。

2. 分科会の今後の計画について

俵部会長より次の4分科会に整理簡素化するため運営幹事会および技術部会幹事会の合同幹事会で協議した旨が述べられ, 原案どおり承認された。

なお今後はこれらの各分科会主査がそれぞれの立場で運営することが了承された。

- 1) クリープ試験分科会 (平主査)
- 2) 資料分科会 (佐井部会長)
- 3) 金材研クリープデータ連絡分科会 (田中主査)
- 4) 材質分科会 (河田主査)
3. その他

俵部会長より今後技術部会を中心にクリープ委員会の推進をはかり, 当委員会は42年度から特に研究分担金を徴収する意向であり協力かたを希望された。

鉄鋼基礎共同研究会

転位論グループ

第1回連絡会 開催日：7月23日。出席者：橋口世話人他5名。

会議事項

1. 転位論グループの運営および研究方針について

当グループで扱っている基礎理論の重要性をPRしながら, 現状の規模で行なわれ得る。すなわち経営のあまりかからない共同研究は続行する。なお1昨年立案した1300万円/年の研究案の再検討を行なう。グループ構成メンバーについて他グループの動きも見て再検討を行なう。

2. 各委員の研究発表

橋口委員より純鉄6%加工焼鈍に伴う点欠陥ループ観察, 高村委員より0.03%C鋼の回復過程の追求, 藤田委員より純鉄よりの炭素析出過程の追求, 本多委員より脆性破壊に対する[O][C][H]の影響に関しいずれも座談風に発表がなされた。

微量元素部会 (仮称)

Nb 分科会

第1回分科会 開催日：7月25日。出席者：金沢幹事長他11名。

会議事項

分科会設立ならびに運営方針について検討なされた。すなわち鋼中 Nb の研究に関し鉄鋼協会を受託者とした通産省41年度鉬工業研究補助金交付決定に伴い, 基礎共同研究会内に分科会を設立し, この研究に当たるよう基礎共同研究会に具申することに決定した。

第2回分科会 開催日：8月10日。出席者：金沢幹事長他28名。

会議事項

1. 各社の含 Nb 鋼研究および市販 Nb 鋼についての説明および共同研究各社分担テーマについて, 大同, 富士, 川鉄, 神鋼, 日本鋼管, 日本製鋼, 住金, 八幡の順に発表。

2. 指導教授の含 Nb 鋼研究詳細について

物理冶金の立場から長谷川, 今井, 五弓, 荒木教授
化学冶金の立場から足立, 松下, 盛教授, 大森助教

授から発表。

3. 次回「鋼中 Nb 分析法」に関し盛教授から、「Nb 鋼の強化機構に関する一解釈」について今井教授から講演願うことに決定。

鉄鋼の照射試験研究委員会

合同委員会および学振第 122 委員会

開催日: 8月1, 2日: 出席者: 長谷川委員長他41名
会議事項

第1次計画の報告書原稿の執筆分担などを打合せるとともに8月中旬に当計画を終了させることを確認した。会誌などへの発表方法については次回打合せ。

第2次計画はベルギーでのテストを終了し、目下そのデータのとりまとめ中である。原研での国内照射後試験は9月に開始される。

第3次計画は照射用試片の製作中で、12月に照射、明年5月に終了予定。また HY80 を使用する炉外試験を補助金対象の研究に繰入れることが承認され、この研究に幸田、北島、美馬3教授にあらたに参加していただくことにした。

第4次計画については前回と同程度の補助金が支給されそのなかで委員長より計画の概略が原子力局に報告してある旨報告があつた。照射炉は GETR を予定。

鉄鋼の照射効果に関し、橋口、幸田、北島、井形、長谷川5教授の講演があつた。

第10回立合者連絡会

開催日: 7月11, 12日: 出席者: 長谷川委員長他19名
会議事項

1. 三菱原子力より第1次分ドージメトリー結果および照射中の試験温度の算定方法について報告があつた。

2. 各社より第1次、2次分の遷移曲線が提出された。1部各社で異なる点があつたので合同委員会に再提出することになった。

3. 第一次協会宛最終報告書の編集を決定した。

機械用鉄鋼規格実態調査委員会

開催日: 7月11日: 出席者: 木下他18名。

会議事項

1. アンケート集計結果に対する解析の中間報告が各工業会別に行なわれた。

2. 報告書作成にあたり内容の正確を期するため、当初の予定通り各工業会2社程度訪問調査を行なうことになった。

3. 報告書は事務局から提案した目次に従い各工業会ごとにまとめ次の委員会に提出する。

クリープ試験技術研究組合

第37回技術委員会

開催日: 7月28日: 出席者: 平委員長他19名。

会議事項

1. 昭和39年度応用研究終了について

昭和39年度応用研究補助金交付研究が終了したので事務局から官に同上終了届を提出した旨およびその内容が概略説明された。

また試験結果報告書を同時に提出したが印刷結果に誤りがあり、正誤表および付録を作成した旨が述べられた。

以上試験終了に伴ない平委員長より38年度試験結果と一緒にして協会講演大会に報告することが述べられ、この旨協会編集委員会に申入することとなった。

2. 昭和40年度共同研究について

昭和40年度クリープ試験研究実施方案の補足審議を行ない、試験担当会社17社の実施状況が報告され、大体1,000hrの1繰返が終る程度であることが明らかにされた。

ついで、同試験結果報告様式の幹事案の検討が行なわれた。

新入会員氏名

(昭和41年6月1日~30日)

正 会 員

木寺 俊雄 八幡製鉄(株)八幡
沢田 繁孝 " "
小谷 直美 (株)神戸製鋼所中研
榎坂 肇 " 高砂
兒子 精祐 川崎製鉄(株)千葉
平井 征夫 " "
吉田 滋 三菱製鋼(株)長崎
関口 融 住友電気工業(株)伊丹
尾崎 鉄郎 三菱重工業(株)名古屋
熊野御堂晋 熊野高等専門学校

杉林 徳久 (株)大沢商店
工藤 孝之 住友金属工業(株)
和歌山
岡崎 章 (株)日立製作所勝田
奥山 連勝 資源技術試験所
伏田 博 大同製鋼(株)中研
鶴戸口英善 東京大学工学部
長久保正子 " "

学 生 会 員

縫部 綴 東京大学工学部
福富 勝夫 " "

丸島 弘也 東京大学工学部
ダルリス・デネク " 大学院
佐藤 一雄 横浜国立大大学院
小森 重喜 東京工業大学大学院
河村 勉 名古屋大学工学部
志賀 正一 関西大学工学部
大関彰一郎 早稲田大学理学部
清水 高治 京都大学大学院

外 国 会 員

Hugo E. Johnson (U.S.A.)